

学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-003

名前：天井里咲

学会名：第 41 回日本診療放射線技師学術大会

開催場所：AOSSA、ハピリン、コートヤード・バイ・マリオット福井

開催期間：2025 年 9 月 12 日(金)～14 日(日)

発表セッション名：DMAT における診療放射線技師の実態調査

発表形態：e ポスター

発表日時：2025 年 9 月 12 日(金)

1. 発表の概要

本研究は、DMAT における診療放射線技師の実態を明らかにするため、全国の災害拠点病院にアンケート調査を実施した。放射線技師は業務調整員としてクロノロジー作成や EMIS 入力を担い、原子力災害時には線量測定や防護指導、診療補助にも従事していた。技能維持訓練や救命資格（BLS、ACLS 等）が有用とされる一方、訓練回数や災害対策教育の不足、女性技師の少なさ、出動経験の少なさが課題として浮き彫りとなった。特に、訓練と実活動の乖離が問題視され、知識や技術の継承体制の構築が急務である。災害医療における放射線技師の役割は重要であり、今後は教育・訓練体制の強化、多様な人材の育成、現場に即した実践的訓練の充実が必要である。本研究は、放射線技師の災害対応力向上と災害医療体制の発展に寄与する基礎資料となるとともに、今後の施策立案への一助となることが期待される。

2. 質疑応答内容 他

DMAT 隊員の中には、超音波検査士の資格があるため、出動する場合があり、派遣された現場で医師の依頼により読影も行っていることが分かった。超音波検査は重要性が高く、超音波検査を行える人材育成や、ポータブルエコーの機材の整備が必要だと思われる。

女性技師が少ない理由として、私たちは、体力的な理由で少ないと思っていたが、それに加え、大型自動車の運転が難しいことがあげられた。

現在の世代では、CT が多く普及しており、頭部の単純撮影を行う機会が少なく、撮影した画像を見るのも少ない。そのため、画像を見て骨折しているのかを判別できないことが多いことが分かった。また、胸部・骨盤部撮影では、緊張性気胸の区別、骨盤骨折での出血の読影も任される時があるため、緊急を要する画像の読影ができるようになる必要があると分かった。

3. 関連発表の内容

福井大学恐竜学部の発表では、CT スキャンを利用して恐竜の研究を行っていた。実際に病院内の CT を使用することがあると知り、人体以外の利用の一例が分かった。講義や実習では、ほかの動物での利用については習わなかつたため、恐竜以外にもどのような場面で使われているのかをさらに知りたいと感じた。

4. 学会参加の感想

今回の学会を通して、DMAT として活動している方々の意見を直接聞くことができ、現場の実際の状況を知ることができた。私たちのアンケート結果とも合致する部分や付け加えた説明もいただき、DMAT 活動についてより深く知ることができた。今回の研究では、対象施設を絞ったため、ほかの様々な病院での放射線技師の役割をさらに知りたいと感じた。

6. 現地参加がわかる写真(4枚)



一般セッション（eポスター発表） 9月12日（金） eポスター会場

1. 機器・人材管理（報告） 10：00～10：30

601（報告）「放射線画像検査参照画面」導入による入院患者出棟時の電話連絡の効果について

NTT東日本関東病院 放射線部 行木万里子

602（報告）ポータブルX線撮影装置の使用実績可視化による運用の最適化

NTT東日本関東病院 放射線部 福地 達夫

603（報告）放射線部門における緊急連絡ツールの導入に向けて-レジリエンス・エンジニアリングの視点で-

大阪急性期・総合医療センター 医療技術部 放射線部門 伊泉 哲太

604（報告）情報の一元管理による業務効率化の取り組み -ポータルサイト構築事例-

広島大学病院 診療支援部 画像診断部門 荒田 大介

605（報告）DMATにおける診療放射線技師の実態調査

京都医療科学大学 医療科学部 放射線技術学科 天井 里咲